

11/12

佐藤ト吉米阻止へ向け13人を!

本日 12 半 教養芝生 全学総決起

全市大の學友諸君。とりわけ理學部の學友諸君。五日間スルの提起の後、明確な方針提起と組織的活動が發展せなかつた事を自己に批判したい。

帝國主義的再編下にある現代日本資本主義社会において、全国學園の車いと重薄く、齊敗する教授会自らを打破するなかから、大學の再編を阻むとしていく我々の車いは、今、一定の困難な局面に向かえりる。政府がファッショニズムに成立せしめた大政法施行下において、各大學の車いが、強権的に圧殺されしものである。我が市立大學にも、田中慶次、學長選挙集会を拒み、10月4日機動隊を導入し、開駐体制を敷く中で、10・8と11・1のデモに対する機動隊による彈圧、業務命令を通じての強制的撤退、再開、11・4の物語のクラス・スートと討論の機動隊導入による強制等々と、政府・當局の強権的用事が繰り返してゐる。だが、しかし、理學部の五日間スト、他部門の四月スト、10・30の學長交代未終決起の圧倒的成績と、反藝体制は徹頭彻尾がう整いつつある。柿木執行部に対する一昧の不文と動搖を示しつつある教官内部の闘争を抜き、クラス運動を軸とし、五日間ストの5つのスローから、専入常勤化、柿木退陣、執行部解散、外ナバージ粉碎、田交貴翁の一の貫徹への持続的斗争となるる渦巻の發展を通り中から、医学部にかけられこゝる再編（医学部予算席のつけ、廢止部、單科大学化、市民病院化）の攻撃を、医学部の學友、教職員、看護婦の車いと重薄し、粉砕しようとするのが、

現在、學園の課題とともに、历年安保三多の中心的環をもつ佐藤訴米阻止の課題が、我々につきつけられこゝる。

日本ヒアメリカヒヤモシテ、沖縄の労働者・食の車いの中で、ますます孤立化を深めつつある佐藤、ニクソンは、ベトナム人民の偏重的な車いの前に、力解しつづめるアジア島嶼体制の再編強化を、内節矛頭をはうみるが、その動きを續けてゐる。それは、この19・21の会談で、沖縄「返還」による沖縄人民の眠りこまこと、本土政府の乗り出しだる、社會主義の強化と、教育制度の帝國主義的改編、地方行政制度の改悪、ひつた沖縄人民の斗争への攻撃、更に沖縄本基地と安保自動延長を軸とした日米軍事同盟の再編強化としてゐる。

ベトナム反戦斗争と、沖縄人民の基地撤去斗争と連帯し、労働者の13日のストライキの斗争と共に、佐藤訴米阻止をクラスストリート斗争とし、本日、12年、教養芝生へ佐藤訴米阻止ノリ、13スト貫徹ノ會議總壇へを牽制的に用ひしル。

理
學

11/12

文責 K